

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	52人	算数	52人	理科	52人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	49人	算数	49人	理科	49人
------	----	-----	----	-----	----	-----

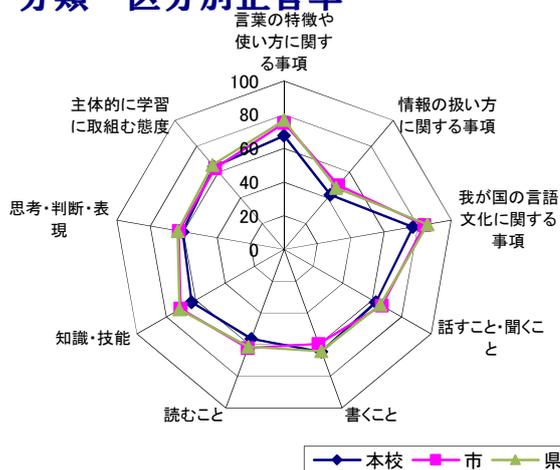
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.5	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	42.4	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	77.1	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	62.5	66.5	65.5
	書くこと	64.6	59.6	64.2
	読むこと	56.3	62.2	61.5
観点	知識・技能	62.8	70.2	71.1
	思考・判断・表現	60.6	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	64.2	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

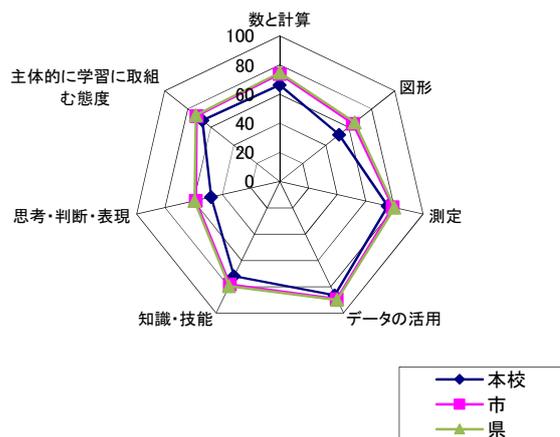
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は67.5%で、市の平均より7.6ポイント、県の平均より9.2ポイント低い。 ●「主語と述語の関係について理解している」についての正答率は58.3%で、県の平均よりも16ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係性について理解させる学習に取り組む。 ・説明文の学習で、主語や述語を確認しながら読解を行う。 ・積極的に国語辞典を活用する機会を設ける。 ・タブレットを活用し、ローマ字に慣れ親しむようにする。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は42.4%で、市の平均より7.2ポイント、県の平均より5.4ポイント低い。 ●「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約している」についての正答率は43.8%で、県の平均よりも11.6ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の読解では、キーセンテンスやキーワードを手掛かりに文章を要約する学習を行う。その際、文字数を制限するなど条件を付けて行う。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は77.1%で、市の平均より6.9ポイント、県の平均より8.8ポイント低い。 ●「漢字のへんやつくりを理解している」についての正答率は77.1%で、県の平均よりも8.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、上央小漢字検定やAIDリルを活用し、繰り返し学習に取り組むことで定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は62.5%で、市の平均より4ポイント、県の平均より3ポイント低い。 ●「互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている」についての正答率は33.3%で、県の平均より17.5ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にして自分の考えを発表する練習に取り組む。 ・話し合い活動の中で、友達の話を共通点や相違点に着目して、自分の考えと比べながら聞く機会を設ける。 ・話し手の意図していることを考えながら聞くことができるよう、日常的に指導していく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は64.6%で、市の平均より5ポイント、県の平均より0.4ポイント高い。 ○「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書いている」についての正答率は77.1%で、県の平均より5.7ポイント高い。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」についての正答率は41.7%で、県の平均より8.1ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを生かして文章を構成する学習や文章を書く際に、行数や段落、キーワードなどの条件を指定して書く学習に取り組む。 ・行事における作文指導や日記指導を通して、伝えたい相手や内容に応じた文章構成について指導していく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は56.3%で、市の平均より5.9ポイント、県の平均より5.2ポイント低い。 ●「場面の様子について、叙述を基に捉えている」についての正答率は14.6%で、県の平均より7.7ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の学習では、叙述を基に、登場人物の性格や登場人物同士の関係、場面の様子について捉えられるように指導していく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.3	73.8	74.8
	図形	51.7	63.7	65.3
	測定	75.4	78.9	80.1
	データの活用	86.5	89.3	90.0
観点	知識・技能	71.9	78.3	79.5
	思考・判断・表現	47.9	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	67.4	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

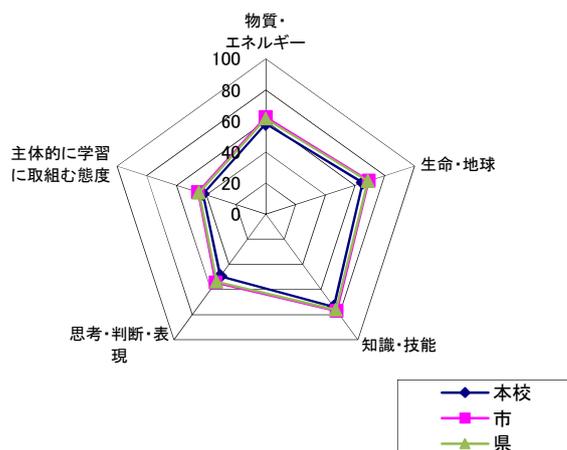
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は66.3%で、市の平均より7.5ポイント、県の平均より8.5ポイント低い。 ○同分母の真分数＋真分数の設定問の正答率は95.8%で、県の平均とほぼ同じである。 ●35×4の暗算の仕方を説明する問題の正答率は35.4%で、県の平均より16ポイント低い。 ●何倍かを求めるために除法の立式をする問題の正答率は47.9%で、県の平均より23ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も基礎・基本の確実な習得を目指し、朝の学習の充実や上央小算数検定を活用して、数と計算の力を伸ばしていく。 ・Aドリルを朝の学習や授業、家庭学習などで活用する。 ・立式をする時に、加減乗除のどれを使うのかを常に意識させる。 ・計算ができるようにするだけではなく、そこにたどり着くまでの過程を大切に授業を展開する。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は51.7%で、市の平均より12ポイント、県の平均より13.6ポイント低い。 ●大きさが同じ6個のボールがぴったり入っている箱の横の長さから、ボールの半径を求める問題の正答率は43.8%で、県の平均より20.6ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作図の手順やコンパス・三角定規の使い方を正しく理解させるとともに、少人数指導で個別支援を充実させていく。 ・ICT機器を活用し動画を使った学習を取り入れ、視覚的に捉えられるよう支援の充実を図る。 ・円や球の半径や直径についての用語の復習をしたり、基礎的な知識を応用して問題を解いたりするように指導していく。
測定	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は75.4%で、市の平均より3.5ポイント、県の平均より4.7ポイント低い。 ○1分＝60秒の関係を理解して解く問題の正答率が83.3%で県の平均とほぼ同じである。 ●はかりの目盛りを読み取る問題の正答率は72.9%で、県の平均より13.6ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1km＝1000m, 1kg＝1000gのようなメートル法の仕組みを単位の意味から理解させたり、生活の中から問題を見つけて問題を作ったりして、児童の学習意欲を高める。 ・長さや重さは実際に測定することに時間をかけるようにする。 ・目盛りの読み方について、はさみ込みの考え方を大切にして、何cm(g)より大きく何cm(g)より小さいと見当をつけて読み取ることができるように指導する。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は86.5%で、市の平均より2.8ポイント、県の平均より3.5ポイント低い。 ●条件の違う2つの棒グラフから事象を正しく読み取る問題の正答率は48.9%で、県の平均より9ポイント低い。また、無回答率が19.1%と高かった。 ●棒グラフで、1目盛の表す数を求める問題の正答率は85.4%、県の平均より4.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフの1目盛りの大きさに気をつけながら数を読み取らせる。また、棒にしっかりと色をつけるように指導することで、目盛りの読みを意識できるようにする。 ・身の回りの事象について表やグラフを読み取るだけでなく、考察する学習も取り入れるようにする。 ・算数はもとより他教科においても、実際にグラフを読んだり、書いたりする活動を取り入れていくようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.2	62.5	61.5
	生命・地球	65.1	69.2	68.6
観点	知識・技能	73.9	77.2	76.3
	思考・判断・表現	49.4	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	42.2	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は58.2%で、市の平均より4.3ポイント、県の平均より3.3ポイント低い。 ○虫眼鏡の正しい使い方を問う問題の正答率は52.1%で、市の平均より1.6ポイント高い。 ○モンシロチョウと比較して、カブトムシとトンボの育ち方を問う問題の正答率は68.8%で、市の平均より3.1ポイント高く、昆虫の完全変態と不完全変態を理解している児童が多い。 ●昆虫の体のつくりを問う問題の正答率は75%で、市の平均より10ポイント低い。 ●晴れた日の温度の変わり方を比較する問題の正答率は75%で、市の平均より19.6ポイント低い。 	<p>昆虫の足がついている部分が、「腹」「胸と腹」についていると誤答した児童が39%いたことから、教科書だけでなくタブレットを活用して、足が胸についている様子を視覚を通して、正しく理解できるようにする。そのうえで、昆虫の体のつくりをスケッチしたり、図で表わしたりする活動を取り入れ、理解したことを定着できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日なたと日陰や時間の経過という2つの条件を表した、グラフの読取の正答率が低かったことから、資料の読取に課題があることが分かった。そこで、問題の文意から知りたいことは何かを明らかにする活動をしっかり行うことで読解力を付ける。そのうえで、問われている条件に合う答えを求めるといふ、段階を踏んだ丁寧な指導を行うようにする。またグラフの読取については、算数や社会の学習と関連させて定着を図っていく。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は65.1%で、市の平均より4.1ポイント、県の平均より3.5ポイント低い。 ○ゴムを伸ばす長さや車の動く距離の関係を実験結果から推測する問題の正答率は64.6%で、市の平均より4.6ポイント高い。 ○電気を通す物と通さない物の理解を問う問題の正答率は88.3%で、市の平均より9.9ポイント高い。 ○自由に動けるようにした磁石のN極が北を表すことを問う問題の正答率は43.8%で市の平均より8.5ポイント高い。 ●大きい音は震えが大きいことを問う問題の正答率は68.8%で、市の平均より11.8ポイント低い。 ●おもちゃの構造を理解し、適切な回路を構成する問題の正答率は45.8%で、市の平均より12.5ポイント低い。 ●回路の名称を問う問題の正答率は58.3%で、市の平均より14.1ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目に見えない音を可視化するために、例えばトライアングルに付箋紙を付けて音の大きさと付箋紙の震え方の違いを実験して調べられるようにし、体験を通して理解できるようにする。 ・基本的な回路をつくれるようにしたうえで、自由な発想で考えた回路を試す活動を行えるようにし、回路の仕組みを思考できるようにする。また、自分や友達の作った回路の様子を図で表せるようにすることで、思考を整理できるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が79.2%で、県の平均より7.2ポイント高い。「上央小スタンダード」を意識した授業展開や、話しやすい学級の雰囲気作りに努めてきた成果が表れている。

○「家の人としょ来のことについて話すことがある。」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が72.9%で、県の平均より7.8ポイント高く、「家の人と学習について話をしている。」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が81.3%で、県の平均より4.8ポイント高い。保護者が、家庭で子供とよく関わり、話をしている様子が伺える。

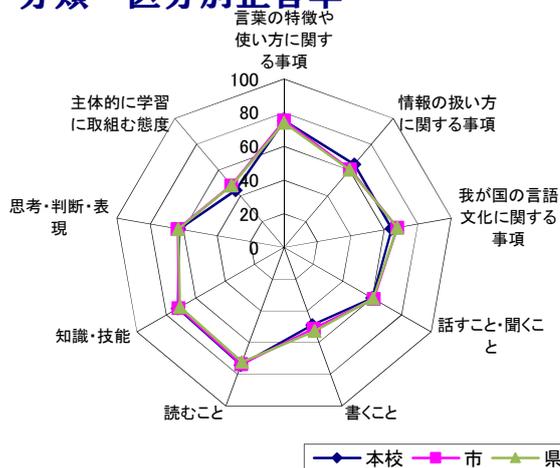
●「家で学校の宿題をしている。」の質問では、91.7%の児童が肯定的回答をしているが、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が56.2%で、県の平均より14.6ポイント低い。また、「家で、学校の授業の復習をしている。」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が50.1%で、県の平均より13.2ポイント低く、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が52.1%で、県の平均より13.3ポイント低い。自主的に家庭学習に取り組む意識が乏しいと考えられる。家庭学習の内容を充実させるためにも、計画表等を活用し、自分で見直しをもってから取り組めるように働きかけていきたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が43.8%で、県の平均より19.5ポイント低い。分からない言葉へ興味関心をもち、辞書を積極的に活用するなど、自力で学ぶ方法を身に付けられるよう指導していきたい。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.3	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	64.4	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	64.4	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	60.0	61.0	60.7
	書くこと	48.9	51.2	52.8
観点	読むこと	74.1	73.7	72.4
	知識・技能	72.2	71.7	70.6
	思考・判断・表現	62.7	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	44.4	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

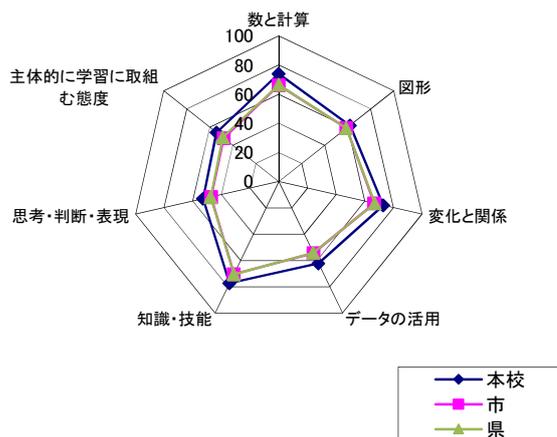
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は75.3%で、市の平均より0.1ポイント低く、県の平均より1.2ポイント高い。 ●漢字を書く問題では、「覚める」の正答率は93.3%で県の平均より13ポイント高いが、「周辺」の正答率は75.6%で県の平均より3.1ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習の時間や上央小漢字検定を活用し、繰り返し漢字の読み書きの学習に取り組んでいくことで、定着を図っていく。 ・家庭学習チャレンジ週間の機会などを利用し、家庭でも繰り返し漢字の学習に取り組む習慣が身に付くよう指導していく。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は64.4%で、市の平均より3.9ポイント、県の平均より4.2ポイント高い。 ○「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけてようやくしている」問題の正答率は68.9%で、県の平均より4.7ポイント高い。 ●「情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している」問題の正答率は31.1%で、県の平均より4.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業から情報と情報を関連付けて考えさせる機会を意図的に設定し、繰り返し指導していく。 ・資料を扱う単元や説明文の学習では、情報を丁寧に読み取ったり段落相互の関係を整理したりして、理解を深められるよう指導していく。 ・係活動等については、アンケートを用いて得られた情報間の関係を記述する。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は64.4%で、市の平均より3.3ポイント、県の平均より3.4ポイント低い。 ●「ことわざの意味を知り、正しく使う」問題の正答率は64.4%で、県の平均より3.4ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習や家庭学習を利用し、ことわざの学習にも取り組むことができるよう日常的に指導していく。 ・ことわざを掲示しておき、関係ある状況になった時には引用したり、適切なことわざが何を問いかけたりすることで、ことわざに触れる機会を多くする。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は、60.0%で、市の平均より1ポイント、県の平均より0.7ポイント低い。 ○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える」問題の正答率は97.8%で県の平均より6.1ポイント高い。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉える」問題の正答率は84.4%で、県の平均より2.2ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のスピーチや学級会活動等の折に、話し手が一番伝えたいことを考えながら聞く習慣をつけさせたり、話し手に確認する活動を入れたりする。 ・聞き取りの問題に対しては、漫然と聞くのではなく、メモを取ることを習慣化させる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は48.9%で、市の平均より2.3ポイント、県の平均より3.9ポイント低い。 ○「段落の役割について理解し2段落構成で文章を書く」問題の正答率は53.3%で県の平均より0.3ポイント高い。 ●「内容の中心を明確にし事実を伝える文章を書く」問題の正答率は48.9%で県の平均より5.9ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く際には、内容の中心を明らかにし、事実と自分の考えとの関係を明確にして書けるよう、よい文章の例を挙げるなどして、指導していく。 ・最終問題でもあるためか、「書く」問題を無回答の児童が15%以上いたことから、時間配分に気を付けるよう指導する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は74.1%で、市の平均より0.4ポイント、県の平均より1.7ポイント高い。 ○「登場人物の性格について具体的に想像する」問題の正答率は91.1%で県の平均より4.8ポイント高い。 ●「登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える」問題の正答率は42.2%で県の平均より2.1ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文や説明文の読み取りの際には、叙述を基に文章を読み、それを根拠として自分の考えを述べられるよう指導していく。 ・『大造じいさんとガン』の学習で、自分が読み取った大造じいさんの心情は、どの描写からそう捉えたのかを明らかにできるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.0	66.1	66.4
	図形	61.9	58.9	58.8
	変化と関係	72.9	66.6	67.0
	データの活用	62.2	54.4	54.2
観点	知識・技能	77.3	70.4	70.6
	思考・判断・表現	52.9	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	54.3	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

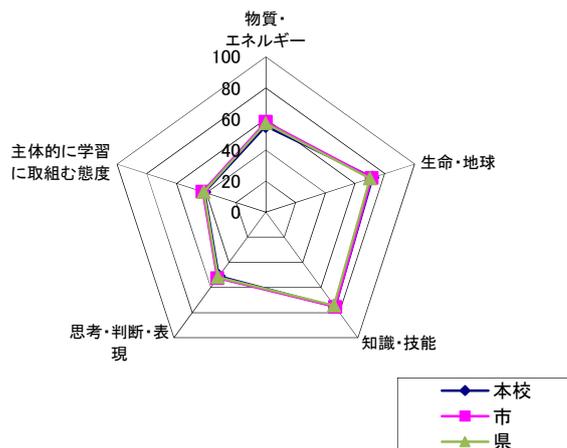
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○校内正答率は74.0%で、市の平均より7.9ポイント、県の平均より7.6ポイント高い。</p> <p>○「わり算・計算のきまりの計算順序を理解しているかの問題」の正答率は88.9%で、県の平均より20.8ポイント高い。</p> <p>●「億と兆・がい数の表し方の位取りの表を使って、命数法で書かれた数を記数法で表す問題」の正答率は71.1%で、県の平均より7.1ポイント低い。</p>	<p>・基礎的な内容の正答率は高く、朝の学習や家庭学習を通じて、基礎的な内容の習得に力を入れた成果の表れと考える。</p> <p>・漢字で書かれた数を数字を使って書く内容では、位を意識した漢字の読み取りの理解が足りないと思われるので、単元の学習が終了した後も、AIDリルなどを利用し定期的に学習に取り組めるようにする。</p>
図形	<p>○校内正答率は61.9%で、市の平均より3.0ポイント、県の平均より3.1ポイント高い。</p> <p>○「360°より小さい角の大きさを求める問題」の正答率は84.4%で、県の平均より9.7ポイント高い。</p> <p>●「面積の単位の関係を説明する問題」の正答率は17.8%で、県の平均より1.4ポイント低い。</p>	<p>・図形の学習では、ICT機器を活用し動画を使った学習を取り入れ、視覚的に捉えられるよう支援の充実を図る。</p> <p>・ペア学習やICTを利用した学習などを用いて対話的学習を行うなど工夫することで、説明する力の習熟を図る。</p> <p>・図形の特徴や性質を見付ける学習では、具体物を使ったり話し合い活動を充実させたりして丁寧に指導を行い、理解を深めていく。</p>
変化と関係	<p>○校内正答率は72.9%で、市の平均より6.3ポイント、県の平均より5.9ポイント高い。</p> <p>○「基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ問題」の正答率は、77.8%で県の平均より9.2ポイント高い。</p> <p>●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題」の正答率は、48.9%で県の2.8ポイント低い。</p>	<p>・簡単な場合の割合については、図や表をもとに理解することができている。今後は、自ら問題文を数直線に表したりする経験を多く積ませ、さらに力を伸ばしていきたい。</p> <p>・数字を使った式だけでなく、○や□などの記号や言葉を使って式を立てる場面を授業の中でも取り入れるようにすることで、伴って変わる2つの数量関係を捉えられるよ</p>
データの活用	<p>○校内正答率は62.2%で、市の平均より7.8ポイント、県の平均より8ポイント高い。</p> <p>○「表から必要な情報を読み取って答えを求め、求め方を説明する問題」では、28.9%と県の平均より8.3ポイント高い。</p> <p>●「折れ線グラフから、変わり方を読み取る問題」では、44.4%で、県の平均より7.8ポイント低い。</p>	<p>・求め方を説明する問題では、県の平均は上回っているが、15.9%が無回答となっている。答えを求めるだけでなく、根拠や理由を言葉で表現する活動を、授業の中で繰り返し取り入れるようにする。</p> <p>・変わり方を読み取る際には、増加だけでなく減少にも目を向けるなど、必要な情報を的確に読み取れるよう指導していく。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.4	58.1	57.2
	生命・地球	71.8	71.1	70.0
観点	知識・技能	75.4	75.5	74.4
	思考・判断・表現	51.0	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	41.2	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は55.4%で、市の平均より2.7ポイント、県の平均より1.8ポイント低い。 ○「物の体積と温度」の温度による空気の体積の変わり方についての問題の正答率は93.3%で、県の平均より10.6ポイント高い。 ○「物のあたためり方」の水のあたためり方から、熱している位置を推測する問題の正答率は77.8%で、県の平均より10.6ポイント高い。 ●「水のすがた」の安全用具を使う理由について答える問題の正答率は55.6%で、県の平均より21.7ポイント低い。 ●「電池のはたらき」の回路の作図についての問題の正答率は24.4%で、県の平均より8.9ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容が日常生活のどのような場面に当てはめて用いることができるかについて触れたり、学習内容と日常生活の関連を重視した活動を意図的に設定したりすることで、習得した知識・技能を活用して問題を解決する力を育てていく。 ・必要項目の一部分のみ理解しているなど、知識・技能の定着に課題が見られる。既習事項についても繰り返し問題に取り組ませることで、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図っていく。 ・後半の問題にかけて、無回答率が高いため、時間内に問題を解き終わらない児童が多いと考える。タブレット学習などを活用しながら、問題に取り組む時間を増やす必要がある。観察・実験の結果を考察したりまとめたりする際に、キーワードを示すなど工夫をし、科学的な言葉や概念を用いて自分の言葉でまとめ、表現できる力を育てていく。 ・安全用具を使う理由や大切さについての知識が定着していないため、実験を行う際には、繰り返し安全用具の大切さを指導していく必要がある。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は71.8%で、市の平均より0.7ポイント、県の平均より1.8ポイント高い。 ○季節とサクラの様子を関係理解し、季節の順に並べ替える問題の正答率は82.2%で、県の平均より12.6ポイント高い。 ○ツバメの1年間の様子を理解し、1年間を通して観察できない理由を答える問題の正答率は88.9%で、県の平均より11.7ポイント高い。 ●実験の結果をもとに、土の粒の大きさと水のしみこみややすさの関係を記述する問題の正答率は、県の平均よりわずかに高いが、60.0%と低い。 ●気温の変化のグラフとヘチマのくきののび方を関係づけて答える問題の正答率は42.2%と低く、県の平均より9.9ポイント低い。 ●満月の1日の動きを理解し、方位を答える問題の正答率は71.1%で、県の正答率より5.2ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動を通して関係付けて考えたりまとめたりした内容についてはよく理解できているが、理解したことを自分の言葉で記述する力を育てていく必要がある。今後も、体験的な活動を取り入れ、理解を深めるとともに、キーワードを使って自分なりに分かったことをまとめる学習を継続的に行っていく。 ・グラフにまとめた事柄の読み取りについて、数値の変化を表したグラフの形だけでなく、数値の大きさや変化の幅についても読み取る力を他教科においても重点的に扱い、伸ばしていく。 ・月の動きの観測は家庭で行うため、学校で協力し合いながら学ぶ内容より関心が薄く、月の動き方についての知識の定着に課題が見られる。映像などで観測の足りない部分を補い、理解を深めていく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が66.7%で、市の平均より5ポイント高い。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が68.8%で、市の平均より4.3ポイント高い。地域学校園で作成している「学習のすすめ」をもとに、低学年の頃から指導を続けてきたことで、家庭学習に取り組む態度が育ってきていると思われる。今後も継続して家庭学習の充実を図っていきたい。

○「学校の授業以外に、ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくや家庭教師もふくむ)」の質問では、1時間以上取り組んでいる児童の割合が75.5%で、市の平均より22ポイント高い。5年生の学習時間(目安1時間以上)取り組んでいる児童が多く、家庭学習に取り組む態度は育っている。今後、学習時間に加え、内容においても充実を図っていきたい。

○「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が86.7%で、市の平均より7.2ポイント高い。「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の質問の肯定的な回答の割合は、90%を超えている。全教員が、上央小スタンダードを意識した授業づくりを工夫している成果が表れている。今後も継続していきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームは除く)」の質問では、2時間以上と答えた児童の割合が64.5%で、県の平均より8.4ポイント高い。また、「ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか」の質問では、「3時間以上4時間より少ない」と答えた児童が15.6%で、市や県の平均より約4ポイント高い。テレビやビデオ・DVDなどの動画視聴時間やテレビゲームで遊ぶ時間が長いことで、学習時間が十分に取れていないことが考えられる。児童に、家庭における動画視聴やテレビゲーム使用の時間について重点的に指導を行うとともに、家庭におけるルールの設定について保護者に協力を依頼し、願ひすることで、家庭と連携して対応していきたい。

宇都宮市立上河内中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを実現する授業研究	「上央小スタンダード」を実践することで、はっきり・じっくり・すっきりを意識した授業を展開する。学習のめあてを児童一人一人に意識させることで主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせたり、考える時間を十分に確保することで考えを深めたり広げたりする力を育成したりすることをねらいとして取り組んでいる。	観点別評価で見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」の平均が高い教科ほど主体的に学習に取り組む態度の平均も高い。特に、5年生の算数は、すべての項目で県の平均を5ポイント以上上回っている。しかし、4年生の算数は、すべて5ポイント以上下回っており、児童が主体的に学びに向かうための指導の工夫が必要であることが分かった。また、アンケート結果では、「授業の中でめあてが示されている」「学習したことを振り返る活動をよく行っている」に対して「はい」と答えた児童が県の平均をやや下回っており、上央小スタンダードのはっきり・すっきり・定着を図っていく必要がある。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に対して肯定的に回答している児童も県の平均よりやや低い。授業では、じっくりの場面の展開も授業の内容に合わせて様々な工夫し、対話による深い学びが実現するよう努めていく。
基礎・基本の確実な習得	朝の学習の時間を活用して「上央小漢字・算数検定」を実施し、漢字・計算を中心として基礎的な学力の定着を図る。家庭学習の習慣化を目的として、家庭学習チャレンジ週間を年2回実施している。算数の学習では、今年度から習熟度別学習を本格実施し、学力の定着を図っている。	4年生は3教科とも知識・技能の正答率が県より低かった。5年生は3教科とも県より高く、特に昨年度から比較して算数の知識・技能が伸びた。アンケート結果では、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」に対して肯定的に回答した児童は県の平均をやや下回っている。ドリルやAIDリルを活用し基礎基本の定着を引き続き図ってくと同時に、自分で課題を見付けて進んで学習に取り組む姿勢も身に付くよう、家庭学習への指導も引き続き重点的に行っていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
思考力・判断力・表現力がほとんどの教科で県の平均を下回っている。特に、記述式の問題で無回答やすべての条件を満たしていない児童が多かった。	自分の考えを短い文を使って分かりやすく説明する(書く)力を身に付ける。	朝の学習では、文を視写したり条件に合った文を書いたりする学習を行う。また、各教科でも、条件を満たしてまとめたり、友達の考えを聞いて自分の考えを整理して書く活動を取り入れたりして、考える力や表現する力を高めていく。